

## 国際化推進室ニュースレター

No. 4

山口県立大学国際化推進室  
kokusaika@yamaguchi-pu.ac.jp

## &lt;報告&gt;

**江里学長が青島大学から名誉教授号を贈られました****(東アジアPTリーダー：馬 鳳如)**

10月30日(火)、青島大学にて授賞式と基調講演が行なわれました。名誉教授の授賞式は、ノーベル物理学賞受賞者などが講演を行なった大学会館でとり行われ、青島大学学長、副学長、付属病院長、副院長などの祝福を受けました。引き続き、文部科学省から3億円の研究資金を得て研究チームを率いた成果についての基調講演に、青島大学付属病院の医師や大学教員・学生などが聴き入りました。演題は「虚血臓器に対する自己骨髄細胞を用いた血管新生療法：Therapeutic angiogenesis induced by autologous bone marrow cells for the treatment of ischemic diseases」で、研究当時は世界的に先進的であった取り組みの着眼点に、様々な角度からの質問が寄せられました。講演通訳は私が務めました。30分間にわたる難解な質疑応答の通訳は、付属病院副院長が流暢な日本語で行なってくれました。アメリカや日本に留学した医師が多く、また、日本で研修した看護師も34名います。青島大学付属病院副院長、看護学部長と、本学看護栄養学部長との間で、共同研究の可能性について検討も行われました。

11月31日には曲阜師範大学本キャンパスを、12月1日には曲阜師範大学日照キャンパスを訪問し、学長懇談会などが持たれました。本キャンパスは世界遺産に登録された高大な孔子

廟群のそばにあり、歴史の只中にあるような錯覚を覚えます。対照的に、日照キャンパスは近代的に設計された新しい海辺の街にあり、ヨットハーバーなどのモダンな夜景も楽しめます。青島大学は空港から車で30分のところにあります。キャンパスの正面中央は図書館という配置に、大学のコンセプトが表現されています。姉妹校からの教職員は大学宿舎に安く泊まることができ、この日も同じく姉妹提携を結んでいる下関市立大学からの教員が休みを利用して夫婦で遊びに来ていました。曲阜師範大学日照キャンパスは、青島市からさらに車で2時間のところにあります。一度フェリーを利用して行ってみれば、近い国という実感がわくことでしょう。

なお、青島大学との学術交流は3年目、曲阜師範大学との学術交流は15年目を迎えています。

**本学にて青島大学フォーラムが開催されました****(東アジアPTリーダー：馬 鳳如)**

11月8日(木)、今度は青島大学一行6名(教員4名、学生2名)が本学を訪問し、青島大学フォーラムが開催されました。これは、昨年度本学側から教員と学生が青島大学を訪問し、フォーラム(ファッションショーや中国語スピーチなど)を行なった交換のイベントとなります。青島大学中国語学部長による基調講演に続き、大学生活について学生が日本語で紹介を行

ないました。次に、本学側と青島大学側の学生代表が、デザイン作品を披露してくれました。最後は本学学生3名(2年生から4年生)による中国語スピーチです。学生が主役となった今回のフォーラムは、学生同士の力の確かめ合いの場であったような気がします。学生がもっと交流し、力をつけ、国際的に力を凌ぎ合う場を創造する必要性を感じました。フォーラムに先立って看護学部棟見学、副学長懇談会も行なわれ、一週間前に本学学長が青島大学訪問時に協議した内容について、議論を深めました。

## **山口県立大学インターナショナルフェスタ 2007 秋が開催されました**

### **イベント1：シンポジウムの開催**

**(ヨーロッパPTリーダー：井生文隆)**

「地域文化を発掘・創造・発信 - フィンランドデザイナーと山口流ライフスタイルを提案する -」をテーマとしたシンポジウムが、11月5日(月)に山口県立大学新講堂(桜園会館)で開催されました。夜7時から9時までという時間帯にも関わらず、大勢の参加者が来場し盛況となりました。

今回は、すでに2002年から山口と深い関わりを持ち、世界で活躍している若手のフィンランドデザイナー新留直人氏と、現在もっとも注目されている中堅および若手のデザイナーをプロデュースしているラウラ・サルヴィリンナ女史をお迎えしました。自然とともにあるフィンランドのライフスタイルとデザイン文化について紹介を受けた後、緑豊かな山口で、都市と田園が融合した生活スタイルの実現について討論し、山口流ライフスタイルを提案するというのが主な目的でした。

今回のシンポジウムにおいて、自然を生かした地域の素材による産業の活性化、これからの社会に必要な暮らしの在り方、それらを実践していく人材の育成などに多くの示唆があり、山口流ライフスタイルの具現化に向けて多くの

成果が得られたと思います。参加した学生にとっては、自分たちが将来目指すべき方向性について参考となったように思われます。シンポジウム当日、学生はフィンランドデザイナーとともに、瑠璃光寺、山口伝承センター(大内塗り見学)、常栄寺雪舟庭を視察し、翌日の6日(火)には秋吉国際芸術村にて施設見学とフィンランドデザイナーよりレクチャーを受け、国際的な視野や感覚の錬磨などに多くの影響と刺激を受けたように感じました。

尚、このシンポジウムは山口県立大学国際文化学部文化創造学科および創作研究助成事業の助成、山口EU協会および山口日本フィンランド協会との共催、フィンランド大使館の後援で運営されました。

### **インターナショナルフェスタ 2007 秋 イベント2：ハロウィンパーティー**

10月31日(水)、県立大学学生食堂にて「留学生歓迎会/ハロウィンパーティー」を行いました。このパーティーは長期留学生(私費留学生)も短期留学生(交換留学生)もすべてを招いて行なう、毎年恒例の行事です。今年はアメリカ、中国、韓国からの留学生を招き、ホストファミリーや学生、教員を含む約60人が参加しました。パーティーの前に、カボチャでランタンを作り、他にもいろいろハロウィンに関するものを飾り付けました。パーティーでは、ESSサークルが用意したゲームや仮装コンテストをして楽しい時間を過ごしました。

(学生報告：国際文化学科、前原望美・福富菜月)

### **インターナショナルフェスタ 2007 秋 イベント3：韓国映画の上映**

**(東アジアPT：林ヒョンジュン)**

11月30日(金)の夕方、F204で韓国の映画「マラソン」を上映しました。上映の後、映画の主題や韓国映画・文化について、学生たち

の間で議論の花が咲きました。映画を通して文化を学ぶ試みは、様々な分野でなされています。特に、映画に描かれた時代風景、登場人物の心理、作者のメッセージ、ストーリーやエンディングの描かれ方などを読み解くことで、文化が見えてきます。当日は、韓国のネイティブの教員2名に対し、学生から多くの質問や疑問が投げかけられました。

本学の外国人教員数の割合は多く、学内で異なる文化に触れるチャンスは大きいといえます。留学生数や外国人教員数は、世界大学ランキングの指標にもなっています。これからも、このような機会をもっと数多く創っていかれたらと思います。

### 元交換留学生の同窓会が開かれました

(北アメリカPTリーダー：シャルコフ、R)

本学とアメリカ・センター大学との学术交流がスタートして、早やくも8年目となりました。昨年度までこの提携のもとで交換留学を行なった両大学の学生たちが山口市内で集まり、初めての同窓会を行いました。現在、センター大出身の元交換留学生の7名が仕事などの関係で日本に戻ってきており、そのうちの3名が山口県の小中高等学校でALTとして活躍しています。本学への交換留学で来日した学生たちの多くが、卒業後に再来日することを選択し、さらに多くが「山口県」に戻ってきているということは、本当に「すごい」ことなのではないでしょうか！本学で勤務するために来日した元国際交流員（イギリスやスペインなど）も時々山口県に遊びに来てくれますが、「山口」の魅力は「人とのきずな」にあるように感じますし、これこそ、本学が大切にしていかなければならないことだと思います。

中には、フルブライト奨学金を受けて、長崎県で研究をしているセンター大出身の元交換留学生もいて、やはり山口に遊びに来てくれました。同窓会では、参加者がそれぞれの交換

留学経験について熱い思いを語り、学生交流プログラムの今後の発展についての話で盛り上がりました。最も印象的だったのは、本学への元交換留学生の中から、初めてフルブライト奨学生が出たということ、そして、本学側とセンター大側との元交換留学生同士で初めての結婚が決まったということです。

現在まで、センター大から本学にやってきた学生は全部で27名。そのうち15名が再来日し、山口県や他県に戻ってきています。一方、本学からセンター大に派遣した学生は全部で18名。そのうち9名が海外関係の仕事や進学を選択しています。

### 留学生の地域派遣を続けています

11月の4週間にわたり、英会話サークルESSのメンバーとセンター大からの交換留学生が宮野小学校を訪れ、「国際交流クラブ」で小学生たちと交流しました。

第1週目は友好的な態度や行動とは何かについて話し合い、5カ国語であいさつを練習しました。いくつかの言葉は小学生のほうがよく知っており、いろいろな言葉を小学生が留学生に教えてくれる場面も見られました。第2週目は日米間のテーブルマナーについて教え合い、第3週目はアメリカ文化の一つであるサンクス・ギビング（感謝祭）の歴史と慣習について勉強しました。ネイティブアメリカンとイギリス移民の出会いに関するロールプレイをし、最後に本物のパンプキンパイを試食しました。第4週目はお互いの国の簡単なゲームを教え合い、「貨物列車ゲーム」「しりとり」「ビンゴ」などを通して交流を深めました。

(学生報告：環境デザイン学科、潮田紗希子)

国際化推進室：毎週水曜日開室（C館4階）

TEL（内線）：3413

青島大学フォーラム



青島大学学生によるデザイン披露



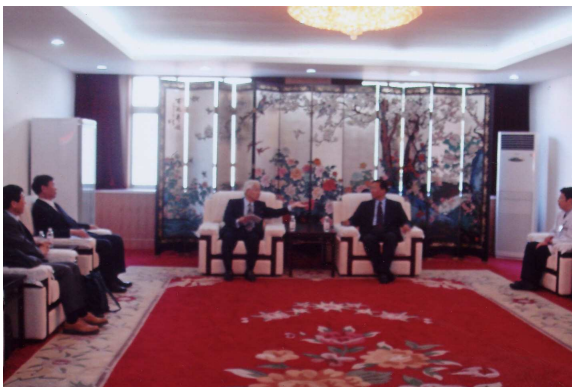
副学長懇談会



フィンランドシンポジウム



元交換留学生の同窓会



青島大学にて名誉教授授与式に臨む江里学長



控え室にて



名誉教授号授与式と基調講演



青島大学附属病院副院長の司会で質疑応答



青島大学と本学看護栄養学部長同志の  
共同研究の話し合い



曲阜師範大学にて